

昭和17年7月1日（水）

朝来、雨模様。午後より一段と猛烈に降り出す。汽車、途中故障あり。角野氏夫妻、仕度を整えつつ遂に中止せらる。夜に及び霽れる。隣組連中、多数詰掛け、見送る積もりなりしものの如し。電話あり。余、強いて慫慂せざりし。後刻ミワさんに、御無理をなさらぬようにと申込ましめ、逡信局の方は、明朝電報にて通報すべしと云ふ。それにて決意せし如し。夜、星燦然と輝けども、次第に曇る。

昭和17年7月2日（木）

角野氏の件は二日の誤り。一日は、余5時より療治に行く。それまでは出席し、先生附添九州一周の意向なりし。処が昨日の豪雨に引き続き、此日も猛烈に降り出し、一時歇むことあるも、思ひ出したように降り続く。河川氾濫の兆しあり。此の日、切手請求せず。国債割当30円券購入せしめらる。

昭和17年7月3日（金）

百円印紙一枚請求あり。序でに切手をも請求す。午前11時、切手類受取に行く。吉富局長も来たり居る。例の貯金、大内某問題に付き、極力名義人を搜索し、香春の奥地に在住を探知し、承諾書を徴し来れるも、自分の関係のみに対し、他局に及ぼさぬので、逡信局より電話にてもう一度行き呉れと申し越せしも、鉄道線路より二里も奥地とて、一日がかり故、行けぬと断り、何れは逡信局にて措置せしものと思はるとあり。矢張り、相手は泥棒なりしと。曇り。初めの間は晴勝ちなりしも、4時頃より再び降雨。

昭和17年7月4日（土）

森久より百円5枚の印紙請求あり。印紙のみ百三十円分、補填の目的にて請求。朝の払込みは余行き、受取りはミワさん行かる。正午飯らる。久子、淳の為に着物を求め下さるとのこと。葉書にて久子へ意向聞かる。夜に及び久子より、淳坊百日咳にて注射し居るとのこと。道子十日に来津の由。本日、下毛南部と北部に両分し、南部の長は山移、北部は栄町と決定の旨通知あり。同時に監察は、二十二日より北部とあり。天候次第に恢復の兆しあり。午後1時より衡器検査に、公会堂にリヤカーに附けて、余独りで行く。車把手を下に置く際、傾斜に依り衡は倒れ、調節具合悪くなる。小包の方は直りしも、郵便秤は直らず。森田さんと呼びに行き、分解して異常なく恢復、合格したり。此の分は森田さんと棒を通して持来る。西牟田さん洋裁習いに来たり。4時頃まで坊やを抱きなどして居らる。コーヒーを振舞ふ。

昭和17年7月5日（日）

愈々、真夏の倂を呈し来る。事務室を洒掃し、余の机の位置を変更す。坊や匐（は）ひ廻り、事務案内の塵屑籠を漁り、其の他手当たり次第に荒らし廻る。襖を大破し、漸く修繕すれば間もなく破る。葉書の包み紙を利用し張る。此日牛乳9時頃持込む。間食になると思いしも与ふ。正午に一本、4時に一本。食事も、朝は三杯近くやる。卵二ヶ。其の間に菓子数回。遂に夕方、事務室及び其の入口に漏らしたり。午後8時前、坊や寝る。余水浴10時を過ぐ。

昭和17年7月6日（月）

昨夜森田さん、徳永氏宅に伊勢さんと行き、活動を見て同家に一泊。主人は福岡の事業関係の講習会に出席、数日留守。朝飯の馳走になりて来らる。流汗淋漓。午後5時少時振りで、角野先生かかり行く。誰も患者居らず。四五日後、傷口が癒るまで来ぬともよしと謂はる。今日穴瀬より二十九円請求ありしのみ。伊勢さん、熱い熱いところぼす。此の朝、坊やウンコを漏らし、朝食前に大騒ぎす。水にて洗ふて呉る。お乳の粉、牛乳のみにて飯と菓子を与えず。夕方風呂行く。渴して居るか、風呂の水を飲み、石鹼を浸して飲みなどす。販りて番茶をがぶがぶ飲むと。8時近くミワさんと外出。途中眠り、床に入ると同時に乳首なしに寝る。八日午前9時より、耶馬溪倶楽部に、南北両部に分割したる初めての会を開催の通知あり。

昭和17年7月7日（火）

炎威（えんい）燬（や）くが如し。此日、耶馬溪倶楽部の会場を、交番の傍らの旅館に変更せりとの電話あり。坊やに乳以外、何も与えざりし。結果腹具合よし。今朝粥食、例の如く調製せり。

昭和17年7月8日（水）

晴天。朝髭剃り。8時45分、中津局に切手代金払込み。帰れば真坂局長臨局。9時20分出発。シャツ新しく調整のものを着用。ガリ板厚紙10, 26。ミワさん別府講習旅費、及び振替四口80更に中り、11時過ぎ特に帰局。中津局より切手類持来り、資金請求に行く。部会は山間部を南部、海岸部を北部とす。今日の食事は会支弁となる。

自腹を切る時に逃げれば吝嗇（りんしょく）とも見られるが、会支弁の際ではそう見る者もないと思えば、断るにも力があると云うもの。今日の切手類は八百円。

昭和17年7月9日（木）

晴れ。風幾分ありて、家の中は割合涼し。貯金切手売切れ、更に20枚程請求。債券は三百余円分、本局で局員勤勉手当より控除しある国債を振替、引取って下さる。国債の隣保班渡しは、現金回収困難。屢々（しばしば）区長代理を訪ふ。夕飯半ばにして、庶務の阿部さん来たり。親戚の女子の就職に就いて相談に来らる。坊や飯台に上り小便す。余知らず。肴の汁が滾（た）れて居るものと思ひ、舐めて見る。小便と教えられ口漱（すす）ぐ。

昭和17年7月10日（金）

此日道子来津の筈。午後零時40分頃、久子来る。2時頃まで遊び居る。帰るさ淳坊の為に、洋服5円余にて求め、坊やと対のを分けて遣る。悦子も見えたる為、土産に菓子を与ふ。坊や午後下痢、幾度か失敬す。夜寝て居り、蒲団に失敬す。此夜寝付き悪く、11時頃漸く眠る。お腹の調子悪かったらし。日中盥に水を入れ置きたる中に入り、お腹を冷やせし為かとも思はる。一度盥に入り頭を洗い呉れし際（廊下より墜落した際）、負傷した傷口を擦（こす）り、痛さに頭を下げ湯の中に顔を突込み、湯を呑みたるを懲りたるらし。然るに、此の日より水遊びに興味をそそり、盥に入ることを嫌はぬようになれり。夕焼けに、明日雨と申居らる。

昭和17年7月11日（土）

清松医かかり連れて行かねばならぬと思ひつつ、梅エキスを坊やに与ふ。それにて元気づく。それまでぐったりと、時々横臥の姿勢なりし。朝曇り。坊やの不浄物を洗濯、乾かす。敷き布団、坊の寝巻、襦袢等。次第に晴天となる。此の朝、四日市通信手臨局。三郷に指導員として行く。横田母堂、昨朝来。中津局より小使いが、重利氏の中津局転勤問題に付き尋ねられたる事実を齎（もたら）し、相談に来らる。余は直ぐ四日市へ行けと忠告したるも、昨日遂に行かず。此日行きたるも、行違いに代理員出張に依り、三日間待てとのことにて空しく飯宅。此の旨報告に見ゆ。

昭和17年7月12日（日）

昨日、余下痢の嫌いあり。午後より再び廁行き。一面、坊やは健康恢復したる如し。今日より飯を遣る。卵腐敗二つ。残り全部煮て終ふ。菓子色々求め来らる。坊や何か分からぬことを頻り喋舌す。鹽に水を採り、湯を加味して少時遊ばす。夕方七時ので来るだろうと、久子来る。遂に来たらざりし。余は9時の汽車ならんと注意するも、待たで帰る。悦子も来たり、菓子やらる。坊、3時眠る。4時過ぎ起きて、玄米乳呑む。此日牛乳配達を缺く。

昭和17年7月13日（月）

坊や床の中にて下痢便。寝巻、蒲団等汚す。朝の仕事倍加す。昨裸にして鹽に入れ、湯を加えたるも、腸の悪い時の入浴は悪結果を生む場合多きに徴し、悪かったのかも知れぬ。気色悪し。梅エキスを与ふ。間もなく元気づける如し。お乳粉与ひ正午より牛乳。今日は湯に行き

て、8時にも一合程与ふ。切手請求はミワさん。新調のワンピースを一着に及び行かる。受取りには11時40分頃、余行き、更に資金請求に行く。

昭和17年7月14日（火）

昨夜半よりミワさん、何か払拭（ふっしょく）し居らる音聞こゆ。母堂下痢、厠に行き臈（やが）て寢床にて嘔吐。多量の廃泄物ありしと。一昨日てんぷらされ、残りしもの昨朝まで食べられし如し。別に腐敗の兆候はなかりしも、時節柄、消化不良を招きたるらし。此日疲労、終日臥床。朝来粥食。余等も御接伴。坊やも玄米粉と牛乳のみ遣り、飯を与えず。坊やの簡単着1, 25、松永より求め来らる。睡眠不足、眠きこと限りなし。伊勢さん休む。曇天、遂に晴れ勝ちとなる。

昭和17年7月15日（水）

朝の間多少曇りなるも、次第に快晴となる。萬年赤ペン何時の間にか尖端湾曲、使用不可能となる。坊やの悪戯と認む。今日切手請求なし。午後零時半、道子突然秀樹を抱き入り来る。最初久子と思ひぬ。秀坊頗る健康相なり。笑ひ、空腹なるも泣かず。玄米乳を与ふ。駅売店にミワさん行かれしも、頃日配達せぬ由。荷物を宅届けとして手配し、更生車にて3時頃行く。5時頃より坊や湯に行く。母堂今日は起上がり、仕事の手伝ひさる。朝より粥食す。夜に至り、巖魔法瓶借りに来る。秀坊に夜与ふ為のお乳を保管する為なりと。愛国パン数ヶ、煎り子等土産品届け越す。巖、子智子の貰ひ方を捜す。其の方が幸福なりと断定す。余は呉れることは不賛成なるも、之を阻止し能わざる憾みあり。

昭和17年7月16日（木）

快晴。朝髭剃りす。母堂払床。僅か一日にして恢復されたり。坊や昼寝2時間。午前中2時間。山車繰り出したらしく、頗る騒々敷き。駅前まで山車及び神輿は来るも、此の町内には来らぬらし。夜に至り、坊や山車を見に森田さんと行く。前田さんも6時近くまで遊び居る。洋裁の関係らし。余パン朝晩共頂く。朝粥、夕は普通食。7時頃よりミワさん、森田さんと山車見に行かれ、一時間余りにて飯らる。坊や通り過ぐる人の肩を一々叩き、対手の人を驚かすと。神経昂ぶりてか容易に寝ず。十一時を過ぐ。放置し置き独りで眠る。豊後町平原局長、山車に附いて廻らる。

昭和17年7月17日（金）

此の朝伊勢さん出勤。切手類請求。午前5時半、道路洒掃の際、巖来たり。秀樹の問題に付き話す。20日に引取ることとなりたる由。其の間百日嘆（さ）にて悩み居る。家に秀樹を置くこと出来ぬと、一旦福岡に戻り、更に20日に再び来ると云ふ。余の立場を話し、達坊を監察が来る間、世話して呉れるよう話す。5時より歯医者かかり、患者居らず。先生入浴中、少時俟ち居る。此の夜も坊や容易に寝ず。10時近く眠る。切手受取りに出局の際、阿部氏より御頼みの人物の就職決定の通知あり。

昭和17年7月18日（土）

請求なし。祇園の関係か、切手請求昨日一件もなし。道子より葉書。疲れて行けぬ。坊や監察でお困りなら、自分が福岡へ連れて行くと云ふ。昨日一ツ松局を終え、此

朝臨局の四日市指導員は、9時より庶務会計から調べて全部視て呉れたが、格別新しき視方と云ふでもないが、克く知悉し居りたるに敬意を払はざるを得ざりし。昼食を遣りて、一時より豊後町、次いで栄町には報告旁々（かたがた）立寄りし如し。坊や汗子で化膿の腫れ物となる。頭顔中一面。湯に入れ、たて薬1, 50にて求め来らる。9時頃寝る。時々起き輾転反側（てんてんはんそく）す。

昭和17年7月19日（日）

朝来曇り、次第に快晴となる。9時よりミワさん別府行き。坊や概ね、余守りす。頃日、頭と顔に汗に依る発疹出来、薬湯としてタデル薬品を1, 50にて求め来られ、昨日来朝夕2回実施す。ミワさん7時の汽車にて飯らる。夕食待つ。横田の小母さん来たり。四日市の田口通信手の手紙を持来。今回は転勤せしむること、不可能なりとあり。

昭和17年7月20日（月）

朝曇り、後晴れ。買い受け請求せぬ積もりなりし処、5月25日分二百円累計相違の旨を以て、本日ミワさん庶務に出頭。帳簿と突合わせの結果、計算違い発見。二百円分切手請求一分引きとして計理す。其の為、取らぬもよき切手類を請求することになり、午後より現金払込み。余4時過ぎ受取りに行く。4時よりミワさん保険講習に本局に行かる。中野書記、逓信局に於ける講習に参加。同氏の説明を聞くこととなりしなり。5時半頃飯らる。此日千九百円年金に、本局員に依り加入したる払込金の即時払いを、当局に請求に付き、本局に注意す。栄町長如水に応援。

昭和17年7月21日（火）

道子10時頃来。午後一時の汽車にて飯福の由。秀樹は昨日、貰ひ手に引渡したる由。50円遣りたりと久子、悦子を連れて来る。昼食を与ひて、道子には「メリケン粉」菓子土産にやる。此の朝、髯剃る。監察員、局公衆溜まりを注意したる如し。3時頃より栄町局を、7時頃までかかり視たる由。

昭和17年7月22日（水）

監察来の心構えにて、朝も早く起きる積もりなりしに、不思議に5時頃、目を覚ます。惶（あわ）てて起床。昨日より町内にてもラジオ体操始まり、聴取出来る程度にあり。余の家の分のみ不具合と認む。岩尾さん昨、頭痛。午後2時早退せし為、今日休養を予想しありたるに、出勤したり。歯刷毛は五六日前、先枝は一昨日調整あり。遂に監査来たらず。

昭和17年7月23日（木）

晴れ。金物屋主人、戸畑の病院にて療治中、昨夜死去。隣保班より三名見舞に至りしか、其の夜、遂に死去の由。本日午後一時、遺骨迎えに駅に至る。余は切手類受取りに行く。坊や薬湯に浸りては復た上がり、湯は冷え身体も冷やすかして下痢の兆しあり。夜は7時より御伽（おとぎ）。9時過ぎ飯り来らる。此の夜竹屋に泥棒が入りし由。

昭和17年7月24日（金）

朝靄かかり、雨にでもなるかと恠（あや）しまれたるが、次第に晴天となる。暑気強し。坊やの頭、お腫（でき）は汗疹（あせも）より来たりしものの如し。頑強容易に

癒らず。頃日薬湯にてたててやる。切手類請求なし。監察遂に来たらず。夜坊や眠らず。百方（ひゃっほう）するも、遂に眠り得ざるものの如し。独りでに睡る。

昭和17年7月25日（土）

例により朝靄立ち罩（こ）めて、今日の天候が案ぜられつつ、一雨したらとの希望が誰の口からも洩れる。併し例に依り暑気厳し。坊やお腫、癒らず。高崎医院に診に遣る。鉄道事故の為、警察官一名、死去屍骸を担ぎ込み取込中。帰宅の儘、遂に再び行かず。坊やにはたててやる。嫌がって泣く。森田さん不快半休。

昭和17年7月26日（日）

大掃除施行。巖、道子より送り越しの坊やの腹かけ、袖なし等持参。午後2時殆ど終了時とて、拭き掃除30分手伝い呉る。アイスケーキ馳走す。局員も総出勤、午前中に片付く。氷キャンデー、一円振舞う

昭和17年7月27日（月）

昨日は幾分曇り。風も可なり多かりしも、今日は朝来、炎暑猛し。栄町長、監察員と今津に行く。守江局長も来る筈なりと。朝髯剃る。

昭和17年7月28日（火）

監察、余す処、当局と豊後町。何れを先にするにせよ、今日来ることは決定的となれり。朝来快晴。飯も7時半には終了。8時前に出勤、待機の姿勢に在り。8時半来る。正午1, 50、二人分竹屋よりとる。大掃除検査、林にては昨日より着手。附近は概ね此の日執行。監察は事務

簡省を主眼とし居り、結束関係など一切見ず。午後2時半まで全部眼を通す。格別のことなしと云ふは、問題として感心させらるる。何物も彼の言動より捕捉し能わざりしと云ふ意味なり。終了後、全員に棒アイスキャンデー馳走す。座蒲団莫産二枚求む。昼食も一人前150。

昭和17年7月29日（水）

快晴。中津局監察、四名にて朝より執行。角野氏よりビスケ其の他、洋菓子下さる。多分、記念品到着を祝する意味と思料したるが、未だ記念品は受取らぬ由。催促して呉れとの意味と思はる。坊やに五つ六つ与ふ。其の為か夕方下痢す。余は何も食べぬながら夜に入りて下痢。就床後、廁行き。今日切手請求。受取りには余行く。満一才以内の幼児体格検査、坊や分、漏れておる。市役所にて受験票作成せしめ、31日豊田校に行くこととなる。

昭和17年7月30日（木）

快晴。監察員より、指示事項を送付越せり。二項より成り、一項は岩尾員を本採用すること、他は為替にして柳浦航空隊兵隊の貯金即時払いに、通帳記載の住所と現在の居所と相違の場合、受領証余白に、現住所を摘記し置くべしと。之を栄町部長に通告す。簡保、奥野書記運用課貸付係として、大幡村に出張中立寄り村役場に集合するに際し、水菓子7円分注文し、之を鶴居局長に伝達方電話す。分類所得税、第一期24円切符は、納税組合に持行く。直接、市役所に持参することとなる。巖、昨福岡に智子を連れて行く。此の事は、久子より森田さんに電話ありし由。

昭和17年7月31日（金）

快晴。森田さんより「話があるから販ってこいと謂って来たから、今日販らせて下さい」と申し出づ。1時の汽車で出発。横田政恵さん来。午後1時より豊田校で、昨年4月以降生まれ幼児の体格検査施行に、坊やも行く。夜は7時半より常会に。尚、朝は納税24円を市役所に納付。前田さん欠損5円、半額補填す。